

府中町ふるさと歴史散歩

〔第8回〕

文化財としての地名 ② (府中)

「府中」とは、「国府」また、その所在地のことで、政治を行う所のことである。

『日本地名大辞典』によると府中という地名は現在、全国に15カ所存在する。大化の改新後、7世紀後半から国府は一国ごとに置かれ、国司が政治を執る場所として古代国家における地方行政の中心であった。

「国府」は各国の中心に位置するというより、都との往来や通信を密にする必要性から、海陸交通の便の良い所に立地した。

安芸国の国府は、もともと府中にあつたという説と、最初は東広島市の西条盆地に置かれ、その後、府中へ移されたという説がある。いずれに

せよ、国府が少なくとも平安中期から府中にあつたことが『和名抄』の記載からわかる。

府中町は安芸国（広島県西部）の政治の中心地であつたのである。町内に残る「国庁」、「総社」、「早馬立」など国府に関連する施設・機関・地名等もそれを物語っている。

「国庁」は国府の役所のあつた場所のことである。江戸時代初期の資料に「石丁」として載っている。その正確な位置は明らかではないが、安芸国の有力な在庁官人であつた田所氏一族の居宅で、現在の田所明神社（石井城一丁目）付近との見方が有力である。

「総社」は古代（中々末期）に国府域に建てられたものである。これは国司が国内の神

社を回って祭祀をする代わりに、一ヶ所にまとめて祭祀をしていた神社のことで、国司の参拝の便をはかつたものとされている。府中の総社は安芸一国の総社といわれ、応徳年間（1084～86）の免田帖に「惣社」の名が記されているので（『芸藩通志』巻39）、これ以前に建立されたことは確かである。この総社は明治6年（1873年）に多家神社に合祀された。総社跡（本町三丁目）は現在、児童公園として整備され、総社会館も建てられて、多くの人々に利用されている。

「早馬立」は現在の下岡田遺跡（石井城二丁目）辺りで、江戸時代の終わり頃まで残っていた地名である。その遺構

や出土品などから安芸駅の跡ではないかと考えられている。山陽道は古代より都と九州の大宰府を結ぶ日本の最も重要な道路で大路と呼ばれ、天平元年（729年）、駅制により約10km毎に駅が設けられた。安芸国には13の駅があつたことがわかつている。畑賀から甲越峠（国府越えの意味）を越えて、その頃は海辺であつた府中の安芸駅を通過して中山峠に向かつていた。

府中町文化財保護審議会委員

熊野 俊浩

問い合わせ

教育委員会生涯学習課

☎ 286-3272

